

論叢

経営リスク

と

効果的なコミュニケーション

2003年4月

「経営リスクと効果的なコミュニケーション」研究会・研究報告書

日本広報学会

目次

はじめに	猪狩誠也
リスクという言葉を中心に考える ——当研究会における用語の統一について——	寺門 克・・・1
リスクマネジメントと広報機能	高見佳宏・・・8
多様化する企業の経営リスクと対応（研究ノート）	横舘久宣・・・17
経営リスクとしての法的リスク ——コンプライアンスと社内コミュニケーションの関連について——	河合秀樹・・・29
観光業界におけるクライシスコミュニケーション ——実務からみる欧米企業と日本企業の違い——	大島槇子・・・44
コミュニケーション・リスクに関する一考察 ——文化と心理学からの分析——	萩原 昇・・・52
「環境問題」から見る経営環境の変化 ——社会の進化と企業の進化——	植月真理・・・66
今日のコミュニケーション環境と経営リスク	清水正道・・・77
経営システムを変革する企業内環境教育	藤平和俊・・・84
リスク情報の開示と経営責任 ——不確実な情報を開示する——	河東康一・・・97
企業を巡る「風説」の影響に関する一考察	駒橋恵子・・・102
謝罪広告についての一考察	城 義紀・・・114
インターネット掲示板の特性分析	濱田逸郎・・・126
「学会特別調査」にみるリスク・コミュニケーションの実態と 2002年度のリスク報道	大谷達郎・・・145
企業再生のコミュニケーション ——「そごう白書」の軌跡：2000年8月～2001年1月——	剣持 隆・・・169
コミュニケーション行動に潜む危機 ——山一証券の崩壊を通じて——	猪狩誠也・・・191

「経営リスクと効果的なコミュニケーション」執筆者

主査	猪狩 誠也	東京経済大学
	植月 真理	(株)ベネッセコーポレーション
	大島 槇子	トライメディア(株)
	大谷 達之	江戸川大学
	河合 秀樹	国廣総合法律事務所
	河東 康一	(株)環境管理センター
	剣持 隆	現代広報研究所
	駒橋 恵子	多摩美術大学
	清水 正道	淑徳大学
	城 義紀	コーポレート・コミュニケーション研究所
	高見 佳宏	(有) オフィス・オン・ザ・ブリッジ
	寺門 克	経営評論家
	萩原 昇	NTTエレクトロニクス(株)
	濱田 逸郎	(株)電通
	藤平 和俊	環境学研究所
	横館 久宣	(社) 日本在外企業協会

はじめに

企業経営にはさまざまなリスクが存在している。それらのリスクを克服したところに企業の利益が生まれる。リスクを未然に防ぐことができなかつたとき、企業にはクライシス発生し、そのクライシスを制御できなければ大きな損失を蒙り、時には企業生命にかかわってくる。

過去の企業クライシスを見ると、コミュニケーション活動の不全がクライシスを発生させたり、より深刻な段階へ導いていることに気づくのである。社内の各所に存在するチェーンズウォールによって遮断される情報、下からのマイナス情報を軽視するトップ、社会の反応を考慮していない記者会見のトップ発言等々。あるいは、これから新しく企業が直面しなければならないリスク要因——例えば、環境問題、インターネットによる誹謗・中傷・・・これらに対応するためにはこれまでと異なる対象とのコミュニケーションが必要になってくるだろう。

この研究会を2年間行なって感じることは、経営リスクをコミュニケーションという視点からアプローチすることの重要性と、同時に面白さであった。この報告書は我々のテーマに関するほんの一部にすぎない。できうれば年度を改め、研究会を再組織したいと考えている。

この研究会では2年間にわたって、「経営リスクと効果的なコミュニケーション」について参加者一人ひとりの問題意識でテーマを選び、2年間に合計20回の研究会を行なったなかで発表と議論を重ねてきた。その間、経営リスク専門の国廣正弁護士には講師をお願いし、専門家の立場からご教示いただいた。ここにあらためてお礼を申し上げたい。また、20回にわたる研究会の場所をご提供いただいた（社）日本在外企業協会にもお礼を申し上げる。

日本広報学会2001年～2002年度

「経営リスクと効果的なコミュニケーション研究会」

主査 猪狩誠也